

## 令和五年度を迎えて

(一社)町田市文化協会会長 高野 宗佳

青葉蔭に合歡の花が楚々と咲いていました。

鶴川の茶室虚心亭へお知らせを届けに参った折の事、大掛かりに庭の手入れが入っておりました。50年前この茶室を造られて町田の文化の発展にお力添え下さった故池田豊先生のお心に触れて…しばしその場に佇みました。



近江孤蓬庵前住職 小堀定泰和尚

改めて、町田市の文化の発展への道のりを振り返り、折々にご尽力頂いた皆様が懐かしく、隔世の感も一入の昨今でございます。

さて、日頃から当協会につきまして、皆様にはご支援を賜りありがとうございます。又、賛助会員の皆様には引き続きご協力を賜り、改めてこころよりお礼申し上げます。

愈々 6月より事務所を拠点として活発に活動が始まりましたことは、町田市をはじめとして皆さまのご支援のお蔭様と有難く感謝申し上げます次第でございます。

この夏は、新たに事務所職員の加藤朱美さんも加わりまして市民文化祭はじめとして諸々の行事の準備を致して参ります。皆様には引き続きご協力の程お願い申し上げます。

盛夏の候、ご自愛頂きつつもご健勝にご活躍をなされますようご祈念申し上げます。

## 令和5年度 定時社員総会

6月11日(日) 町田市民ホール第4会議室において総社員数71名のうち47名が出席(委任状提出16名)して理事、監事、顧問及びご来賓のご参加のもと開催されました。コロナ禍に際して一致協力して乗り越え、積年の願いであった事務所の開設も叶い、歴史的な新たな一步を踏み出した総会となりました。その後に行われた懇親会も和やかに行われました。



## 『文化と共にある生活の豊かさを 町田の当たり前』

町田市立博物館 館長 伊藤 嘉章

博物館は町田市立国際工芸美術館(仮称)として生まれ変わるべく準備を進めています。新しい工芸専門の美術館とはどうあるべきかを考えると「町田の当たり前」という言葉が浮かんできました。工芸が鑑賞の対象としてあるだけではなく、ガラスの向こう側ではなく見る人の側にあり、生活を共にしていくことで、心豊かな生活となっていく。それが「町田の当たり前」になったならというように。



町田市文化協会の皆様には、博物館の様々な活動にご協力をいただけてきました。例えば焼物やガラスの展覧会で、館蔵の作品に花を活けていただく。あるいは茶の湯の器の並ぶ展覧会にあわせて釜を掛けていただき、来館者に茶の世界を楽しんでいただく。吟詠や室内楽演奏、篆刻もありました。本年12月に中央図書館で開催予定のパネル展「いけばな×花器」では、館蔵の花器に花を活けていただき、その写真がパネルとなります。こうした体験などから、展示された鑑賞の対象が、実は身近にあるものであることを実感していただくことが可能となっていくのです。

町田市文化協会の皆様の活動をあらためて見てきました。そこで見えてきたのは、「文化」が与えられるものではなくて、市民自らがその一翼を担ってそれを大きく育てつつ享受していくのだということ大切にされているということです。これは凄いことだと思います。

だからこそ、「工芸の楽しさを知る」を「町田の当たり前」にすることを目指す私たちも、これからも一緒になって頑張れたらと願っています。「心豊かな文化とともにある生活」を「町田の当たり前」にするために。

町田市文化協会様には、賛助会員として参加させていただいております。新年賀詞交歓会や市民文化祭、市民美術展など参加見学させていただき、楽しませていただくと同時に会員皆様のご活躍の姿と作品の素晴らしさに毎回驚かされております。コロナ禍でここ数年活動が制限され、ご苦勞が多かったと拝察いたしますが、創意工夫され活動を継続されてこられたことに敬意を表します。コロナも終息に向かい市民生活も元に戻りつつあり、以前に増して活発に活動されますように期待しております。



時代祭り実行委員長として

さて、弊社平野屋金物店は明治16年の創業で5代に亘り町田の地で奉仕させていただいております。地域の発展と共に弊社も発展してまいりました。日頃金物の仕事をしておりまして、文化ということ意識することはあまりございません。しかしながら、考えてみますと、皆さんは文化鍋や文化包丁と言った名前を聞いたことがあると思います。金物は生活で欠かせない調理用品や生活雑貨から、寺や神社など文化財の補修・修繕に使われる飾金物や和釘など、幅広く私達の文化的な生活や伝統文化に関わっております。金物には「鍋・釜」類、「利器・工具」、「建築金物」、「家具金物」のジャンルがあります。鍋・釜は文化的な生活を送る為の器物や道具類、利器工具はノミや鋸・ドリルなどの大工道具や機械工具、建築金物は建物に使用するボルトやビス、各種器具・資材など、家具金物は住まいの建具や家具に使われる錠前や戸車、丁番などです。他にも衣食住の住に関わる品々を幅広く扱っております。江戸時代には農具や大工道具を作る鍛冶屋が各地にありましたが、金物屋の前身と言えます。幕末から明治時代に入るとブリキのバケツやヤカンなど輸入雑貨や家庭用品も扱う金物屋が横浜や神戸に出来、最先端の業種・業態として全国に拡がりました。平野屋も横浜に新しく出来た金物屋さんに、親戚が勤めたことがきっかけで創業に至ったと聞いております。また同時期に全国にあった鍛冶屋が西日本では兵庫県の三木、東日本では新潟の三条・燕に集結して金物の産地として発展しました。横浜線が開通するまでは、平野屋にも三条の金物問屋が八王子から人力車に乗って営業に来ていたそうです。また、横浜から牛車で町田まで仕入れた商品を運んでいました。

関東大震災や原町田大火、大戦を乗り越え、戦後の復興時には住宅建設の資材や道具、昭和30年代には豊かな生活に貢献する石油コンロや石油ストーブ、魔法瓶やアルマイトのお弁当箱などの家庭金物、昭和40年代からは住宅建設ラッシュもあり土木・建設資材や電動工具などの扱いが主力となり、阪神淡路大震災や東日本大震災以降は防災用品や安全用品、リフォーム建材などに力を入れております。長い歴史に恥じぬように「誠実」をモットーに地域と共に歩んでいきたいと思っております。

結びに町田市文化協会様が加入団体とともにますますご発展されますように、そして町田市が文化的で住みよい街になりますようにお祈り申し上げます。

## 小言こうべいとして生きる

町田商工会議所 副会頭 大塚 信彰

日ごろは文化協会の活動を精力的に展開いただいている事に敬意を評します。さて、私も、昨秋、古希をむかえ、叙勲をいただくこととなり、自らの人生を振り返ってみることが多くなりました。20代前半は消防団活動、お祭りやイベントにと地域と共に活動し、40歳より4期16年市議会議員として市政全般に関わることができました。まさに地域の皆様に支えられ歩んだ人生だと思っております。ところで、最近ではIT化やコロナ騒動により地域の人々の繋がりが非常に弱くなっていると感じております。そこで、江戸の庶民に習い「小言こうべい」として私たちの世代が経験した生活様式の一部でも伝承できたらと思っております。



落語の世界で表現される長屋の長老ではなく、現代の人々が生活の中で悩んだり苦しんだりした時に、心のふれ合いを感じられる行き方の手助けになればと思うようになりました。新しい伝達手段でも心の絆は大事にすることが出来ましょう。そんな思いを抱かれる後輩たちの一助になれば幸せです。長寿社会と言われる現代社会、まだまだ「小僧っ子」と言われる年代ではありますが地域と共に立ち回っていければ良いなと思っております。

## ご挨拶

町田市人形文化連盟 会長 松岡みゆき

人形文化連盟会員は皆様おひとり、お一人が、個性のある人形を制作されています。会員の中には、長年押絵の教室を開催され生徒さんを指導されながら、東京都美術館の手工芸部門で何度も入選受賞されています。又、自宅を開放されて沢山の人形を展示されたり、個展を開催されたり、そして全会員が文化祭に力作を出展し、鑑賞される皆様には、大変喜んで頂いています。しかし大変残念な事に会員のお一人が昨年逝去されました。人形作家の安藤早苗さんです。安藤さんの球体関節人形は、映画「ヘブンズストーリー」で撮影されるほどでした。素晴らしい技術の持ち主でした。しかし私達会員も悲しんでばかりられません。一番の供養は、これからも皆様に喜んで頂ける人形を作り続ける事です。人形連盟の想いは、キャッチフレーズ「人形を愛して」に尽きます。



これからも町田市の文化の発展の為に、会員一同、人形を心を込めて制作して参ります。

## 国会議事堂と大臣室の見学・研修旅行「6月13日」 —— (一社)町田市文化協会副会長 三竹 和行

何年ぶりかのバスでの研修旅行です、梅雨時なのに太陽がでていました、47名の参加者のうちほとんどの方(私も)が初めての国会議事堂の見学と紹介がなければ行くことが難しい大臣室の見学、おまけに本会議の傍聴までできました。「参加して良かった」が皆さんの感想です、お土産までいただき楽しい1日でした。



新緑の五月 武相華道展がパリオ 4 Fで盛大に開催されました。

前期70席、後期70席が自分の花を主張しました。白いボックス型の花席、背景も白で統一、そこに自分の作品を表現するのは。町田市長石阪丈一様、各所属の市長、財団関係、市議会、文化協会の方々等ご来場いただきました。華展会場は、新鮮な花の香り、植物のもつ生命力を精一杯表現されておりました。花をいける時は、花と語り合い、そして持っている花の特徴を出し切ります。家にいることが多いご主人は、生け花ハズバンドと呼ばれているようです。二人三脚での作品も見受けられました、いけ花には二千以上の流派があります。町田市長を案内しまして、作品の見方がプロでした。一般の皆さんは正面ばかりみえますが、市長は後ろをよく見ておりました。文化協会の会長先生は、家元ですので多忙にもかかわらず、責任出版されておりました。今年の武相華道展も無事に終えてホッとしましたが、これから本格的に町田華道協会記念展に取り掛かります。



## 個人・団体情報

### ■町田茶道会のご案内

#### \* 月例茶会 (予約制)

9月17日(日)「広間席 山吹」 席主：裏千家 鈴木宗秀  
 10月15日(日)「広間席 山吹」 席主：裏千家 青山宗佳  
 会場：プラザ町田ビル (町田市文化交流センター5階)  
 御茶券代：1席 1,500円  
 申し込み：TEL 044-988-1757 (事務局)  
 MAIL machida.sado@gmail.com

#### \* 町田市民文化祭茶会

日時：11月5日(日)  
 会場：町田市民ホール  
 ・茶会：1階サロン  
 ・親子で親しむ茶会：第2会議室  
 ※詳細は後日お知らせします。



### ■第70回 町田華道協会 記念華展

日時：10月14日(土) 10時～17時  
 15日(日) 10時～16時  
 会場：町田市文化交流センター 6階  
 70周年記念として歴代会長の特別コーナーを設けております。

### ■町田市美術協会のご案内

2023年度 (令和5年度) アートコンテスト  
 日時：8月30日(水)～9月3日(日)  
 10:00～17:00 (最終日16:00まで)  
 町田市立国際版画美術館  
 作品部門  
 絵画・版画・手工芸・陶芸・写真・彫刻 他  
 授賞式  
 9月2日(土) 14:00～

### ■音楽の泉(シャンソン) マ・シャンブルサロンコンサート

毎月第2・第4木曜日 14:30～17:00  
 次回 8/24、9/14・28、10/12・26  
 会場：マ・シャンブル (成瀬駅南口出ですぐ)  
 会費：1,500円  
 詳細はお問い合わせ下さい 090-2444-1683 齊藤

第29回  
 アートコンテスト  
 町田市展

令和5年 第45回 新たな時代へ  
 町田市民文化祭 "秋の催し"

10月8日(日)・29日(日) / 10月31日(火)～11月5日(日)